

外部評価委員： 豊田一成、高安正美、鈴木英子、鈴木一弥、片山英治、稲生憲一
報告書作成者： 神山安弘

評価時期 令和5年3月

1 重点目標の評価

重点目標1「主体的に学び行動する基礎の育成」について

評価指標①「一人ひとりが安心して、自分のやりたいことにかかわり、遊びを楽しんでいるか。」は、保護者95%、教員100%が「十分達成している」「達成している」と高い評価を得ている。コロナ禍で園は教育活動を工夫し教育内容を充実させる取組が理解された成果である。同時に、保護者に対して降園時や個人面談等で幼児の姿で成長や課題を伝えている結果である。「全体の評価」3の「教職員は幼児をよく理解し指導にあたっている。」も「十分達成している」「達成している」が97%と高い評価を得ている。評価指標②「学級や他学年の友達に興味をもち、かかわりを喜び遊んでいるか。」は、保護者90%、教員100%が「十分に達成している」「達成している」と高い評価を得ている。「全体の評価」8の「幼稚園は、幼児が幼児同士や身近な人とのかかわりを大切にされた保育を展開している。」も「十分達成している」「達成している」が97%と高い評価を得ている。コロナ禍で教育活動が制限されることや幼児の実態から教員の提案で異年齢グループの遊びを計画的に増やすなど指導計画を改善した成果である。

重点目標2「豊かな人間性の基礎の育成」について

評価指標①-1「挨拶をしたり友達と遊んだりしながら、人とかかわることを喜んでいるか。」は、保護者97%、教員100%が「十分に達成している」「達成している」と高い評価を得ている。「全体の評価」5の「幼児は明るく伸び伸びと幼稚園生活を送っている。」も「十分達成している」「達成している」が96%と高い評価を得ている。幼児が人とかかわりながら楽しい園生活を送っていることがいえる。評価指標①-2「ものを大切にしたり、きまりを守ろうとしたりしているか。」は、保護者の93%が「十分達成している」「達成している」、7%が「改善を要する」「よくわからない」と評価している。しかし、教員の100%が「達成している」と評価しているが園の自己評価報告書で「人とのかかわりを通して思いやりの気持ち、善悪の区別、場に応じた行動を身に付けていきます。」と考察しているように次年度に向けた指導の改善策を明らかにすることが大切である。評価指標②「栽培物や自然物に興味、関心をもち、見たり触れたりする中で面白さを感じているか。」は、保護者95%、教員100%が「十分に達成している」「達成している」と高い評価を得ている。評価指標③「自分の思ったことや考えたことを安心して動きや言葉で表しているか。」は、保護者94%、教員100%が「十分に達成している」「達成している」と高い評価をしている。

重点目標3「健康な体力・安全な生活の素地の育成」について

評価指標①「体を十分に動かして遊ぶことを楽しんでいるか。」は、保護者92%、教員100%が「十分に達成している」「達成している」と高い評価を得ている。「全体の評価」6「幼稚園は、幼児が体を動かして遊ぶことや自然に触れる経験にすすんで取り組んでいる。」も「十分達成している」「達成している」が95%と高い評価を得ている。園全体で登園後、戸外に出て体を動かして遊ぶことや運動遊びの紹介や「運動遊び教室」の実践などの成果だといえる。評価指標②-2「ルールや順番を守って安全に遊ぼうとしているか。」は、保護者97%が「十分に達成している」「達成している」と高い評価をしているが、教員は20%が「改善を要する。」と評価に大きな乖離がある。園の自己評価報告書に幼児の「ルールの伝え方に課題」と考察しているように、幼児の実態を分析・考察し教育活動の質の向上を期待したい。

2 今後の改善に向けた意見

保護者・教員アンケートにおいて全ての評価指標で高い評価を得ている。コロナ禍の教育活動で様々な制限があるなか、園が取組んだ成果が評価された結果である。高い評価の要因についてアンケート結果をもとに分析・考察し、今後も継続して教育活動の質の向上を図ることを期待したい。

3 その他の意見

- ・評価アンケートの設問の文言が配付資料によって統一なされていないことがあるので改善を期待したい。
- ・教員の自己評価の内容について深く考察し、教育活動の質の向上に向けた改善を期待したい。